

何を学ぶのか

2024.7.4

今週の月曜日から、職場体験ということで、6人の中学生が幼稚園に来ている。7月1日（月）初日の最後に、主任の先生が、中学生から感想などを聞き取ってくれた。

- 子どもたちから話しかけてくれてうれしかった。緊張したが、明日からも頑張りたい。
- 人懐っこい子どもたちで、私から話しかける前に誘ったり話しかけたりしてくれた。「どこから来たの?」「いつまでいるの?」など聞かれた。
- 不安だったが、子どもたちが自分から話しかけてきてくれて、5日間頑張れそうだった。「明日で帰るの?」「どうして金曜日までなの?」など聞かれた。
- 子どもたちに対して「どうしたらいいか?」を考えてきたが、子どもが自分たちで考えて行動できることがわかり、安心した。思った以上に疲れたが楽しかった。
- お花で飲み物を作ったり、石鹸でケーキを作ったり、砂遊びをしたりと今まで経験したことのない遊びをすることができて楽しかった。大人数の子どもたちをお世話するのは初めてだが、学んだことを今後に生かしたい。
- 子どもたちと仲良くなれるか不安だったが、子どもに「これ見て」など話しかけられた。5日間頑張れそうだなと思った。

正直な思いが出ている。緊張や不安があつて当たり前である。きっと、子どもたちに救われたのだと思う。それが安心となっている。「学んだことを今後に生かしたい」とある。この学んだことが重要である。職場見学ではない。職場体験である。体験に勝るものはない。

体験期間は、一日や二日ではない。5日間である。最初は、見えてはいなかった幼稚園の先生の苦勞が見えてくるかもしれない。先生方の細やかな配慮にも気づくようになるかもしれない。どんな仕事にも、苦勞はつきものである。そんな楽な仕事はない。そして、仕事というものは、誰かのためになっている。そうやって社会は成り立っている。仕事をする事で、社会の一員として活躍できている。

将来の目標を明確に決めている中学生は、少数派ではなかろうか。多くの中学生は、まだまだぼんやりとしていることだろう。今回の職場体験は、極論を言えば、さほど職種にこだわる必要はない。どんな仕事でもかまわない。仕事をするということはこういうことかと、何となくわかってくれれば、それでよい。

畑にじゃがいも掘りに出かけた。6人のうちの一人が、担任の先生からデジタルカメラを預けられた。意外と積極的に撮影している。「カメラマンになりたいんです」とつぶやいた。それでよい。人生、何がどうなるかわからない。この5日間の体験が、自分の中に残り、少しでも何かを考えるきっかけになってくれればと願う。